

十二、「友人葬」を行ったから脱会できない

親族の葬儀を「友人葬」で行った創価学会員の中には、

「これで創価学会から離れられなくなった」

「葬儀で創価学会員のお世話になった」

「お寺へ行くのが気まづくなった」

「今さら正宗寺院で法事などはしてくれないだろう」

などと思いついて、学会の誤りに気づいても脱会できない人がいるようです。

謗法の集団である創価学会による「友人葬」と称する葬儀は、御本仏日蓮大聖人の教えに背く儀式であり、それによって弔われる故人が成仏することはありません。

葬儀は、人生最期の儀式であり、親交のあった方々と今生のお別れをする儀式ですが、もつとも大事なことは、故人を成仏の境界に導くところにあります。ですから、故人の成仏を第一に考えるべきであり、そのためには正しい妙法によって故人を供養しなければなりません。

「友人葬を行ったから、学会から離れられなくなった」ということは、「もはや改宗できなくなった」ということでしょう。しかしその考えは誤りです。日蓮大聖人は、

「法の邪正を分別して其の後正法に付いて後世を願へ」

(守護国家論 御書一五三頁)

と仰せられ、仏法の正邪を分別し、邪法を捨てて正しい仏法に帰依することが大切であることを御教示されています。

故人の成仏も、あなたの今後の人生も、創価学会を脱会して日蓮正宗の信徒となることによって、すべては開かれていくのです。

したがって、「葬儀の折に、創価学会員に世話になった」とか、「創価学会の葬儀を行った以上は、そのあとの法事なども創価学会に依頼しなければならない」といって、どこまでも過った創価学会に執着することは、故人の成仏のためにも、自身の人生のためにも、決して良い結果をもたらすものではありません。

また、「友人葬で親族を弔ったから、お寺に行くのが気まづくなった」などと考えることはあなたの思いすぎにすぎません。

日蓮正宗の僧侶は、一切の衆生を成仏に導く御本仏日蓮大聖人の教えを、身に体して修行しているのですから、慈悲の心をもってあらゆる人々に対応しています。安心して正宗寺院を訪ねてください。

したがって、あなたが「正宗寺院では、友人葬で弔った故人の法事をしてくれないのではないか」などと心配する必要もないのです。創価学会を脱会し、日蓮正宗の信徒となつたうえで、故人の戒名や法事を願い出るならば、正宗僧侶は快くこれを受け、日蓮大聖人の教えに則つた正しい法要儀式を行つてくれることでしょう。

葬儀に限らず、創価学会で行っている冠婚葬祭はすべて、御本仏日蓮大聖人の教えに背く儀式であり、それによつて真の成仏や幸福を得られることはないのです。

一日も早く創価学会を脱会し、正しい信仰によつて真の成仏と幸福を願つていきましょう。

ちなみに創価学会の墓苑に墓をもっている方が、創価学会を脱会したからといって、墓を返却しなければならぬということはありません。ですから、学会の墓苑に墓があるからといって、脱会をためらうことはないのです。